

長岡市過疎地域自立促進計画（素案）に関するパブリックコメントの実施結果

1 概要

実施期間 平成 27 年 12 月 25 日（金）から平成 28 年 1 月 12 日（火）まで
 閲覧方法 窓口（アオーレ長岡、地域振興戦略部、各支所）及び市ホームページ
 意見件数 9 件（提出者 5 名）

2 お寄せいただいたご意見と市の考え

番号	意見（要旨）	市の考え
1	<p>中山間地域が置かれている現状と今後の見通しを考えると、計画に書かれているハード整備や事業支援については、一定の必要性を満たしていると思います。しかしながら、それぞれの事業が個別に切り分けられ、連携や相互作用が図られていない印象を受けます。</p> <p>有機的なつながりが、計画の文面に表れておらず、どうしても事業の縦割りが顕著である印象を受けました。</p> <p>この点について、すでに検討はされているかと思いますが、計画を読んだ市民に広くその意図が伝わるような表現方法を今一度検討いただければと思います。</p>	<p>計画の策定にあたっては、国の示す施策区分に基づき、各分野ごとに事業を大別して掲載しています。</p> <p>事業の縦割りによる弊害が発生しないよう、庁内の関係課はもとより、中間支援組織である（公財）山の暮らし再生機構や地域の N P O 等、関係団体と課題を共有しながら取り組みを進めてまいります。</p>
2	<p>ふるさとに対する想いが地域づくりの原動力のひとつだと思います。</p> <p>地域で暮らす小学生や中学生、高校生といった世代の人たちがこの先、進学や就職で地域を離れても、ふるさとへの想いをもち続けてくれるような活動が生まれてほしいです。</p>	<p>過疎計画は、地域住の方や、N P O 等、多くの方からのお話しをお聞きしながら策定を進めてきました。</p> <p>これからも、地域のみなさんの思いをしっかりと受け止めて取り組みを進めてまいります。</p>
3	<p>地域資源に限りがある過疎地域においては、そこに暮らす人たち自身が自分たちの地域を愛し、自分たちの暮らしを守っていくために、自ら検討し、創意工夫していくことが必須だと感じます。</p> <p>本計画によって、住民一人ひとりの主体性を引き出し、自分ごととして捉えられ、参加できる地域単位（集落、大字、小学校区など）での活動が多く芽生えることを期待します。</p>	
4	<p>過疎地域だけでなく、市全域の魅力を活かしあう地域づくりを目指すことはとても良いことだと思います。</p> <p>地域の特性を活かすことで W I N W I N の関係性を実現してください。</p>	<p>過疎地域だけでなく、市全域が連携することで、相互の魅力と活力が生み出されると考えております。引き続き、全市一体となった</p>

		魅力ある地域づくりを進めてまいります。
5	<p>地域の現状と課題を整理したうえで、良い基本方針だと感じました。</p> <p>そのうえで、「産業の振興」や「交通通信体系の整備」など多岐に渡る計画が掲載されていて、分野ごとに整備を要するハード・ソフト事業があることが理解できました。ボトムアップ的な地域づくりの方針・計画として好感を受けます。地域住民としても、役割で力を発揮していくため、計画に対する理解や、行政との役割分担等について継続的な対話が必要だと思いました。</p> <p>しかし、生活者である私たち住民は、行政と対話する場や、自分たちにできる役割を確認できる場等をどのように持てばいいのか分かり難いというも率直な感想です。地域課題に対する共通認識や、大きな方針を共有する合意形成の仕組みづくりについては、行政から先導的にすすめて貰いたいと思います。</p> <p>また、地域課題に幅広く公平に対応していく一方で、やる気や成長が期待できる分野、全国で相対的に強い分野を、徹底的に伸ばしていく取り組みが必要だと感じていますが、計画からは見え難いと思いました。</p> <p>全国モデルとなるような地域づくりを目指すなかでは、長岡市内だけで完結することは少なく、人的、金銭的、情報等、外部からの協力や、連携は不可欠です。伸ばす分野を明言・可視化して外部にアピールしていくことも大切だと感じました。</p> <p>そのうえで、利己的な“住民のわがまま”のように、「意識改革」や「世代交代」が必要な『地域の根源的課題』にもアプローチしていくために、この計画が、行政と住民の会話を生み、外の力と上手に付き合っていく練習になって欲しいと思います。</p>	<p>計画は、安心して住み続けられる地域の基盤を構築することを主眼に置いて策定しております。</p> <p>一方で、地域の持つ特性を全国に誇れる地域の宝にしていくことは、大きな課題であり、チャンスでもあります。</p> <p>計画に登載した「地域の宝磨き上げ事業」や「山の暮らしづくり事業」は、そういった地域が持つ資源に着目したもので、住民や関係団体みなさんとともに地域の個性を伸ばしていく事業であると考えております。</p> <p>また、団体やグループに属さない住民の皆さんからも気軽に地域づくりに参加していただくため、様々な機会を通じて場を設けるだけでなく、行政職員も地域に積極的に出向いて、地域の実情把握に努めてまいります。</p>
6	<p>コミュニティバスの運行支援には、小規模な過疎地域の特性を活かしながら「持続可能な中山間地域を目指す自立的地域コミュニティ創造特区」の中での新たな規制緩和と合わせた中山間地域型の地域交通を検討・実現して欲しいです。</p>	<p>長岡市では、地域が抱える課題を解決するため、平成 23 年 12 月に国の指定を受けた当該特区制度を最大限活用した取り組みを進めており、平成 25 年 3 月には、自家用マイクロバス等の有償貸渡しを行うため、規制の特例措置を盛り込</p>

		<p>んだ計画が認定されています。</p> <p>今後も様々な制度を研究しながら、地域課題の解決にあたってまいります。</p>
7	<p>対策であげられている復興支援員や地域NPOは、時間が限られている復興基金に財源を頼っている部分が多く、これらの活動をどう自立させていくかは今後の重要な課題となると思います。収益事業を実施しながら活動を継続していくことも重要ですが、新たな公の担い手となる様々な役割を担ってもらいながら、行政・地域とのパートナーシップを構築することが重要だと考えます。</p>	<p>中山間地域に配置されている地域復興支援員や、地域で活動されているNPO等の団体は、震災からの復興、地域間交流等、多様な分野で活躍している全国に誇れるモデルとなっています。</p> <p>今後も、そういった人材や団体と連携しながら過疎地域の活性化を進めてまいります。</p>
8	<p>少子化・高齢化、これから更に進んでいくであろう世帯数の減少に応じ、集落単位での自治活動に限界が生じ始めているように感じます。「集落単位に限らず地域全体で活動する地域団体との連携」とも記述にありますが、それだけでなく、集落連携や集落合併などの思い切った対策も必要であるように感じます。</p> <p>住民の主体性を引き出す地域経営という新しい視点を取り入れ、地域住民の創意工夫が活発に活かされる取組として注目されている「小規模多機能自治」や「小さな拠点」などの取組も期待します。</p>	<p>地域で実施したヒアリングでも、多くの方が少子化・高齢化による自治機能の低下について不安を抱えていらっしゃいました。</p> <p>住民の皆さんが、より安心して住み続けられる地域づくりのため、様々な手法を検討していきたいと考えております。</p>
9	<p>過疎化が進む中でも誰もが安心して暮らし続ける地域の実現とあわせて、地域の中に新しい風を吹き込む意味でも人口の社会増を増やしていく取組は積極的に進んでいくべきだと思います。</p> <p>最近では様々な地域が移住定住事業を行ってきたことが実を結び、都市から地方への移住がひとつのトレンドとなりつつあります。この契機を活かして、過疎高齢化の流れを引き留め持続可能な地域を目指していきたいです。</p>	<p>人口の社会増のための取組については、今後も積極的に取り組んでいくべきであると考えております。</p> <p>特に、本計画では「地域文化の振興」や、「その他地域の自立促進に関し必要な事項」に記載されている事業を基軸として交流人口を増加させ、定住につなげていきたいと考えております。</p>